



国語部会

国語科を通した意志をもっている姿

言語活動に目的と相手意識をもち、活動の中で生まれた課題を、既習や言葉を拠り所にして解決していく姿

視点 1

自らの学びをつなぐ

【その姿に向かうために】

- 指導事項を習得するために効果的で、教材に合った言語活動を設定することで、児童が期待をもって言語活動に取り組むことができるようにする。
- 子どもが目的を達成するためにどんな手順が必要か計画する際、その手順で学んでいった結果、自分に付く力を評価規準として示し、授業の中でその学びについて振り返るようにする。そうすることで、子どもが自分の学びを意識し、次の時間や次の単元、日常生活の中に生かすことができるようにする。
- 子どもが学び方や考え方を生かしながら学習を進めていくために、前学年・前単元との学びのつながりを教師が把握し、子どもがこれまでの学び（例えば読みの視点・言葉の吟味等）を使ったり、新しい学びを獲得したと意識したりできるような単元構成にする。

視点 2

他者の学びを 自らの学びに つなぐ

【その姿に向かうために】

- 言語活動をしていく中で生まれた問いのうち、その活動の目的・相手のために解決しなくてはならないものを課題とする。そうすることで、子どもが課題を解決するために他者の考えを求め、交流を通して、自分の考えが広がったり深まったりする価値を感じられるようにする。
- 子どもが「〇〇の考えを聞きたい。」「〇〇に自分の考えを言いたい。」と交流の目的を意識しながら相手を見付けるようにするために、子どもがどんな視点で考えているのか、その視点でどんな考えをもっているのかを可視化する。
- 子どもが授業で表現したものや振り返りを評価していく中で、その子の考えを把握し、目標到達するためにどのような学びが必要か捉える。そうすることで、教師の助言を受けながら、子どもが自分の考えをより深める交流をしたり、個人で考え続けていた子どもが他者の考えに目を向けたりするようにする。

※下線は教師の手立てを示している。

国語部の成果と課題

【令和7年度の国語部で目指した意志をもっている姿】

言語活動に目的と相手意識をもち、活動の中で生まれた課題を、既習や言葉を拠り所にして解決していく姿

次年度につなげていきたいことや方向性について

視点1 自らの学びをつなぐ

日常の活動の積み重ねから

言語活動への期待感を生む

指導事項を習得するために、効果的で教材に合った言語活動を設定した。そうすることで、子どもが目的や相手意識をもって学習を進め、その単元で身に付けさせたい力を習得することができた。

しかし、その活動と出合うとき、子どもが「～したい。」と期待感をもっているかどうかには、ばらつきがあった。言語活動の内容になじみがないことから、その活動の見通しをもてなかったり楽しさを見いだせなかったりした様子が見られた。言語活動への意欲が意志をもつことに大きく影響する。言語活動への出合いを盛り上げるためにも、前単元や日常生活の中で子どもが様々な言語活動を経験できるような活動を設定していく必要がある。特に、書く活動では、自分の考えを書き、それを誰かに読んでもらう経験を積むことが大切であると考える。

言語活動を経験しておくことで、その楽しさを実感し、単元の言語活動として出合うときに、その単元の目的と合わせて「～したい。」と期待感をもち姿を目指す。

子どもの実態に合わせた

学びの振り返り方法の構築

単元の導入時に学習計画を立てる際、評価規準を子どもがもてるようにし、学習の度に学びを振り返るようにした。それにより、学習の中で自分の学びを意識し、次の学習へつなげていく姿が見られた。また、単元における学びを自覚することで、次の単元でも、学んだ読み方や書き方、聞き方や話し方を取り入れようとする姿も見られた。

各単元において子どもが評価規準をもつことができるよう、各学年の発達段階に応じた提示の仕方や、振り返りの仕方を模索する必要がある。そうすることで、子どもに無理させることなく、子どもの成長に即した学びのつなぎ方を構築することができると考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

子どもの考えを可視化する範囲を限定する

子どもがどんな視点で考えているのか、その視点に基づいてどんな考えをもっているのかを可視化した。それにより、自分のタイミングで他者の考えを見たり、近くの子ども同士で対話したりしながら自分の学習を進めていく姿が見られた。可視化することでどの人の考えが自分に必要かを選び、その考えを詳しく知るためにその人と対話する姿をねらっていたが、そこまでは至らなかった。見える範囲が学級全体だったために、どの考えに着目したらよいのかがはっきりしないことや、可視化という環境整備だけでは足りないことが分かった。

そこで、可視化する方法を改善して見える範囲を限定し、環境だけでなく教師の全体への問いかけを取り入れる方法を試していく。それにより、追究する過程で他者の考えに気付きやすくなり、さらに教師による焦点化で他者の話し方・聞き方・書き方・読み方を自分の学びにつなげることができるようにしていきたい。

他者を求めるきっかけを作り

学びを焦点化する教師の関わり

子どもが追究する中で、どんな視点でどんな考えをもっているのかを教師が見取り、子どもに気付いてほしい点や考えを深めたい点について全体に取り上げる時間を設定した。そうすることで、子どもが授業の目標につながる要素に気付き、自分の考えを深めたり、他者の学びを取り入れたりするきっかけをつくることができた。しかし、どのタイミングでどんな姿を取り上げ全体に広めるのか、授業者として判断に迷うところもある。

より効果的な手立てとするには、子どもが追究する姿からどんな学びを全体に広げるのか、本時の目標と子どもの思考とを照らし合わせて具体的に想定しておき、子どもの姿で現れなかった場合の取り上げ方も考えておく必要がある。そうすることで、子どもが確実にその時間の学びに気付き、他者の考え

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

筆者の考えを理解し納得するために、既習や言葉を拠り所にして読みを進め、課題を解決していく姿

本単元の学習では、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することをねらう。要旨は「はじめ」や「終わり」の部分に着目し、その内容を短くまとめることで書くことができるが、それは字面だけの理解にとどまる。そこで本単元では、要旨を把握したうえで自分の考えを記述する「レビュー」という言語活動に取り組む。自分がどれだけ納得したかレビューとして表現するためには、筆者の考えを深く理解しなくてはならない。その目的意識をもつことで、単に「はじめ・中・終わり」の構成だけでなく、筆者の考えと事例といった関係や、事例の中にも原因と結果という関係があることに気付くことができる。さらに、字面だけだった要旨と「中」で書かれる事例とをつなげるといった、筆者の考えを深く理解できるような読み方を習得することができる。

【単元の目標】

- ・事例の中から結果と原因の関係に気付くことができるようにする。【知識及び技能】
- ・要旨と事例を結び付け、筆者の伝えたいことを捉えたり、それについて自分の思いをまとめたりすることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・粘り強く学習に取り組み、要旨を捉えたり、自分で選択した事例を要旨に結び付けたりしようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

既習の読みを生かし、目的意識をもって読みを進める
「見立てる」で学んだ文章構成や、要旨の捉え方、事例への注目の仕方などの国語科の学びを生かし、『言葉の意味が分かること』の読みへと接続できるよう単元を構成した。『見立てる』ではどう学習したのか、同様に原因と結果が事例にあるのかと教師が問うことで、子どもたちが既習に戻り、学び方を考えることができるようにする。単元で活用する振り返りでは、国語科の力でねらう評価規準に基づき、選択式と記述式の振り返りを行う。そうすることで、より学びを自覚し、今回の学びをこれからに生かす力を育むことができると考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

多様な見方に触れ、自分の読みを広げる
『言葉の意味は面である。』とはどういうことか。』という課題に対する自分の考えは、「オクリンクプラス」を使ってまとめ、子どもたちがどの事例を選び、どんな考えをもっているのかを共有できるようにした。そうすることで、「自分の考えがあっているか確かめたい。」「自分と似た考えをもつ人とつながりたい。」と思いをもち、ヒントを得ることができると考える。また、子どもたちの考えや学び方を教師が把握し、必要に応じて助言することで、他者の考えを取り入れたり参考にしたりしながら課題を解決していくことができると考える。

【単元構成(7時間扱い)】

1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目	5・6 (本時)・7 時間目
イントロダクション 説明文の要旨を捉えて、レビューを書いて自分の思いを相手に伝えよう！				
学習の見通しをもつ → 要旨・事例を知る → 構成を知る → 既習を生かして要旨を見付け → 要旨と事例を結び付けて読む 「見立てる」 「言葉の意味が分かること」				
これまでの説明文の学習を振り返ろう。 初めて知れることがある。 筆者の考えを知ることができる。 個別探究 『見立てる』を読んでレビューを書こう。 要旨 はじめ・終わり・筆者の伝えたいこと 筆者の伝えたいことは、はじめと終わりにあったはずだよ。 事例 中・原因と結果・要旨を支えるもの 筆者の伝えたいことを理解するには、中をもっと読まない。 レビューを書くには、筆者の伝えたいことを理解しなければ！	よく分からないままで「納得」できている？ 個別探究 納得するにはどう読むといいのかな。 見付けることはすぐにできたよ。 どういう意味が知りたいな。 中にある事例を読むと、要旨の意味が分かったよ。 〇〇が原因で、△△という結果が起こった、を見付けるのが、5年生の説明文の学習なんだね。 要旨と事例を結び付けて読むことが、大切なんだね。	次は、『言葉の意味が分かること』のレビューを書いてみよう。 長い文だ。難しい。 要旨も見付からない。 協働探究 なぜ、『見立てる』ではできたのかな？ 構成 文章の組立方のこと・「文章構成図」を使って はじめ・中・終わりも分からない。 事例はこの部分？ 『見立てる』の時みたいに、事例を読めば要旨も分かる？ 事例の中身も、難しいからじゃない？ 構成が分かると、要旨も分かるんだ。	『見立てる』の学習を生かして、文章構成図を書いてみよう 構成が分かれば、要旨も見付きそう。 個別探究 『言葉の意味が分かること』の要旨を書こう。 はじめと終わりが分かったから…。 まとめるべき部分がよく分かったよ。 要旨は 書けたけど… 「言葉の意味は面である」とは…？ 面って何だろう？ 点を知りたいよ。 要旨は書けた。でもまだ意味は理解できていないよ。	要旨の意味を理解しよう。 要旨を理解するには、事例と結び付けて読むのが大事だった。 個別探究 「言葉の意味は面である」とは？ 前みたいに事例が分かると理解できるかも。 実際に面と点を図で描いてみようかな。 図にすると整理されて分かりやすくなったよ。 大事件化 友達のような言葉を探すと面が分かった。 友達の考えを聞くことで、面と点が理解できた。 協働探究 事例と結び付けるとよく分かったから、要旨も理解ができるようになったよ。 筆者の伝えたいことがよく分かったよ。 同じ文を読んで友達は何を考えたのかな。
リフレクション レビューを書く活動を通して、要旨を理解する力と自分の考えを伝える力が身に付いたね！				

【本時の目標】

要旨と事例を結び付ける活動を通して、筆者の考えを捉えるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（6/7）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図とかかわり
＜前時まで＞ 『言葉の意味が分かること』の要旨に「言葉の意味は面である」という文言が出てきた際、子どもは、要旨の理解ができないままでは自分の考えをもつことができないと考えた。そのため前時から、筆者の言う「面」とは何なのかを理解するため、文中の事例を個人で選択し、図式化・友達との交流等を通して要旨と事例を結び付けながら理解する活動をしている。 『見立てる』の時みたいに要旨と事例を結び付けると、要旨の意味も分かりそうだよ。 面の中に点があると分かった。 皿・湯のみ・グラス・マグカップ わん・ジョッキ コップ		
○本時に設定した課題の確認 前回選んだ事例の続きを調べたい。 友達が事例を図にしていたから同じく調べたい。 レビューに向けて、事例について自分の考えを交えながらまとめようかな。	学び方への理解	子どもが学びをつなげられるように、前時までの成果と本時で考えたことを想起する。（視点1）
「言葉の意味は面である」とは、どういうこと？		
○選択した事例を深める活動（図式化・言葉の探索・友達との交流等） コップ かむふむ 他言語 一つの言葉から様々な意味合いが考えられる事例 違う言葉だが似たような意味合いでまとめられる事例 違う言語だが言い表し方の数や範囲が異なる事例 コップの面に、他にも点があるのか調べたい。 「かむ」「ふむ」はどんな面にあるのかな。 言語によって面が違ふとはどういうことだろう？ 教科書に載っている事例 コップの考え方で、他の面を探してみたい。 「かむ」「ふむ」のような事例は他にないかな。 中国や韓国などだけでなく、他の国の言語ではどう？ 教科書の事例を発展させる ぼうしを面にすると、キャップ、ハット、ベレー帽…が点になる。 面はこんな感じ。 かむ 敷く・押す ふむ あるものを上からおしつける動作 日本語は雨も雪も霰も「降る」を使うけど、英語では、It rains./It snows./Hail is falls.と、違う言葉を使う。 いすの面には、ソファ、ベンチ、椅子…の点が見付かったよ。 汚れを取る 接触して動かす 日本語は体も食器も「洗う」だけど、フランス語では物によって言い方を変えるらしい。 袋 時計 先生	自ら設定した課題の解決に向けた活動の仕方 要旨と事例をつなげる読み 原因と結果の関係 友達との考えの共有方法	選択した事例が近い子ども同士が相談し合えるよう、座席を近くに配置する。（視点2） 各自のクロームブックの他、国語辞典を置いたり、子どもが本文の叙述に立ち返れるよう黒板に全文シートを掲示したりと、活動に活用できるようにする。 自分の取組に自信がなかったり、困りがあったりする子どものため、教室前方にはクロームブックを設置し、友達の取組がリアルタイムで確認できるようにする。子どものクロームブックでは、友達の考えが見えるよう事例ごとにボードを作成する。（視点2）
要旨を事例と結び付けるとよく分かったから、「言葉の意味は面である」の意味もよく分かったよ。		
○本時の学習の振り返り 調べた事例を理解することができた。 自分の調べた事例の面が何か分かったよ。 友達の考えから、新たな発見や納得したことがあったよ。 事例の理解 要旨と事例の結び付け 仲間の学びの活用	振り返りの仕方	自らの学びがどの程度身に付いたのか自覚できるように、振り返りには、子どもと立てた評価規準を、項目として設定する。また、本時の成果や次時に取り組みたいことを文章で表すカードを作ることによって、子どもが次の活動への見通しや意欲をもてるようにする。（視点1）

【本時の評価】

筆者の考えを捉えるために、選んだ事例の、面や点を書き表している。（オクリンクのカード・発言）

文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう

『見立てる』

『言葉の意味が分かること』

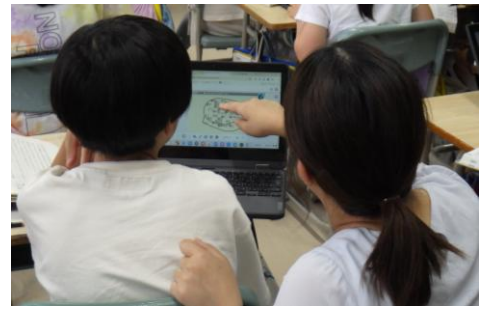
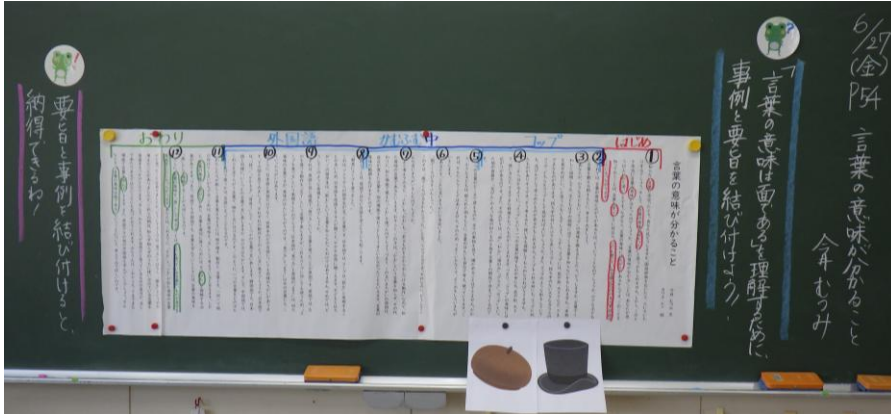
『原因と結果』

評価規準 (B)

単元の評価規準	時	活動内容	評価規準 (B)	手立て (評価方法)	身に付けさせたい力
知識・技能 ① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) ② 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 思考・判断・表現 ① 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ② 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 主体的に学習に取り組む態度 ① 粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。	1	学習計画を立てる	知 ② 「はじめ・中・終わり」という文の構成に気付いている。(現状◎) 筆者の伝えたいことの大まかな部分を把握することができる。(現状○)	・「はじめ・中・終わり」という文の構成に気付くために、これまでの説明文の学習を想起する。(発言・振り返り) ・筆者の伝えたいことが何なのかを把握するため、レビューの作成を行い、「はじめ」「終わり」に注目させることで、筆者の考えが分かることに気付く。(レビュー・発言)	文章を読むときに、話の大筋を読む力
	2	要旨・事例(原因と結果)を知る	知 ① 事例の中から結果を捉え、それを支える原因に気付いている。(初出) 思 ① 叙述をもとに、全体の構成を捉えて、筆者の伝えたいことを要旨として形にすることができる。(初出) 要旨と事例を結び付け、筆者の伝えたいことについて捉えようとしている。(初出) 思 ② 把握した要旨から考えた自分の考えをまとめることができる。 筆者の伝えたいことについて、大まかに把握することができた上で、要旨として形にすることができるよう、中の段落から言葉を補ったり必要な言葉を見付けたりすることができる。	・4年生までの「考えと理由」「事例」「全体と中心」の学習を想起し、5年生では発展した「原因と結果」に注目することを全体で確認する。「○○だから△△になる」という原因と結果の関係を知り、事例の中にあると気付かせることで、原因と結果の見つけ方を知れるようにする。(発言・振り返り) ・要旨について、ただの字面だけの把握になってしまわないように、要旨と事例を結び付ける活動を設定し、事例についての理解を深める。(発言・オクリンクのカード・振り返り) ・上記の活動から、要旨について理解させた上で、自分は筆者の伝えたいことについてどう考えるか、思いをもたせるためにレビューの作成という言語活動を設定する。(オクリンクのカード・振り返り)	「○○だから△△になる」という、事象が起きた結果とそれを支える原因に気付く力 要旨と事例を結び付けて考える力 文章を読んで、それに対する自分の考えをもととする力
	3	構成を知る	知 ② 「はじめ・終わり」に筆者の主張、「中」に事例が書かれているという文の構成に気付いている。(現状◎)	・「はじめ・中・終わり」の構成に気付けるようにするために、文章構成図を書かせる。(発言・振り返り)	文章構成を捉える力
	4	要旨を見付ける	知 ② 筆者の伝えたいことの大まかな部分を把握することができる。(現状○) 思 ① 叙述をもとに、全体の構成を捉えて、筆者の伝えたいことを要旨として形にすることができる。(初出) 主 ① 『見立てる』の学習を生かして、全体の構成を捉えようとしている。	・要旨を把握するために、文章構成図とこれまでの学びをもとに、「はじめ」「おわり」に筆者の伝えたいことがあると気付かせる。(レビュー)	文章を読むときに、話の大筋を読む力
	5	事例の理解を深める	知 ① 事例の中から結果を捉え、それを支える原因に気付いている。 思 ① 要旨と事例を結び付け、筆者の伝えたいことについて捉えようとしている。(初出)	・要旨はただの字面だけの把握になってしまわないように、要旨と事例を結び付ける活動を設定し、事例についての理解を深める。(発言・オクリンクのカード・振り返り) ・教師は意図的に児童同士をつなげたり、声を掛けたりすることで、相手の考えについて話を聞いたり、自分の考えに取り入れたりできるようつながりをもたせる。(交流)	要旨と事例を結び付けて考える力 自分に合った方法で、自分の考えを表出しようとする力
	6		主 ① 要旨を理解するために事例を選択して、要旨と事例を結び付けようとしている。		
	7	同上 レビューを書いて考えを伝え合う	知 ① 5・6時と同様 思 ① 5・6時と同様 思 ② 把握した要旨から考えた自分の考えをまとめることができる。	・前時までの事例の理解を深める活動で得た事例への理解を生かし、レビューの「納得度の理由」の欄を書かせる。そうすることで、要旨の字面だけの理解にはならず、理解した上で筆者の伝えたいことに対する意見を入れた相手意識のあるレビューを完成させられるようにする。	文章を読んで、それに対する自分の考えをもととする力 自分の考えを支える事例を選択し、根拠にして考えを述べる力

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- 説明文の読み方や、言語活動に対する意欲のもたせ方など、前に学習した教材や前単元の学びを生かす単元構成を組むことができた。
- 評価規準を事前に子どもたちに提示していたことで、自然と次時に学びを生かす姿を生み出せたり、子ども自身で「次はこうしたい。」と意志をもたせたりすることができた。

【課題】

- 振り返りを見返して次の活動につなげようとする子どもが少数いた一方で、それを生かすことをさせてあげられずに、前時と同じ活動に没頭したり、求めていたものとずれた活動に夢中になったりする子どもが多くいた。教師の発問や声掛けとして、言語活動の意図・目的や、活動のゴール（課題が解決した状態とはどのような状態か）を分かりやすく示す必要があった。
- 「レビューを書くため」に「面とは何かを理解する」ことが本時の主活動であったが、その活動をするにあたり、レビューの相手意識や目的意識の精度の高まりが見られれば、もっと意志が見える授業になったと感じる。
- 子どもたちの振り返りを読むと、「面や点について調べることを頑張った子」、「友達と交流できたことがよかったと感じている子」、「次回のレビュー作成を頑張りたいと思っている子」など、本時を終えた一人一人の到達点がバラバラであった。授業を通じて全員が到達したいラインに向かえるような活動にするため、発問を単純化したり、振り返りの項目を導入時に確認したりするなどの工夫が必要であった。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 自信がない子・活動面に困りがある子への配慮として、同じような活動をしている子ども同士の座席を近くに配置したり、友達の取組をリアルタイムで確認することができるようテレビにオクリンクプラスの画面を映し出したりした。その結果、友達の学びから自分の取組に反映させようとする子どもがいたり、「自分もその活動をやってみよう。」と考えを変える子がいたりした。

【課題】

- 困りがある子以外の子たちや、全体への手立てがあってもよかった。子どもたちは、試行ツールを埋めることをゴールとしていたため、正直なところ困りがあまりなく、そのことから他者を求める必要もなく、個人でどんどん進める姿が見られた。そのため、活動の内容を精査する必要があった。
- テレビ画面に、リアルタイムでの取組を映し出したが、「視覚化」することだけでなく、「視覚化＋必要感」、「視覚化＋一人では解決できない」などの、追加の要素や目的が必要だった。
- 「友達と話していいよ。」「隣の人と話し合ってごらん。」と声を掛けることで、子どもたちはやっと友達との交流をしていたが、つながることを直接促すのではなく、「〇〇な人と話したい!」という意志が自然ともてるような授業をねらう必要があった。
- 次時も同じ活動をするわけではあったが、現在の進捗状況を交流したり、活動から教材の本文に立ち返ったりするなど、個々での活動から一度全体への活動に戻す必要があったように感じる。全体で学習しているという意識付けが必要であった。

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

中心人物の作文の続きを考える言語活動を通して、言葉に注目し、中心人物の気持ちを豊かに想像する姿

4年生の物語教材では、登場人物の気持ちの変化や情景について、具体的に想像する姿をねらう。そのために、本単元では、中心人物が冒頭に書いていた作文の続きを考え、できた作文を友達と読み合う言語活動を設定した。そうすることで、作文の続きを考える過程で、中心人物がどんな気持ちだったのかという課題をもつ。そして解決するために、気持ちを表す言葉や情景に注目したり、仲間の考えを聞いたりすることで、複数の言葉を結び付けながら、中心人物の気持ちや思いを豊かに想像することができると考えた。

【単元の目標】

- 中心人物の気持ちや心情を表す語句の量を増やし、話や文の中で使うことで、語彙を豊かにしている。
- 「読むこと」において、中心人物が心に残ったことについて考えたことを共有し、注目する言葉によって一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができるようにする。
- 中心人物の気持ちの変化や情景の言葉へ積極的に注目し、中心人物が心に残ったことを考えたり、言葉から仲間の同じ考えや異なる考えについて交流したりすることができるようにする。

【知識及び運動】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

今までの国語の学びの可視化と振り返りの視点

本文や言葉に注目する際に、「情景」や「比喩」、「色の表現」など、今までの国語の学びを読み込む視点として可視化することで、今回の学習と今までの国語の学びをつなげることができるようにする。さらに、読みの視点で見付けた言葉に対して自分の考えをもちながら、毎時間の最後に自分の学びや学び方についてどうだったか振り返りを行う。そうすることで、次時の学びを調整したり、今までの読みの視点から新たな言葉に注目しようとしたりする姿をねらう。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

読む場面の限定と言葉の気付きを広げる教師の発問

読む場面を限定した場面シートを班で共有する。そうすることで、「情景」や「比喩」、「色の表現」など、異なる視点を比較しながら、同じ言葉でも違う考えをもっていることに気付いたり、自分も仲間の考え方で考えたりすることができるようにする。また、読む場面で取り上げたい言葉を複数想定し、全体に共有することで、他の班の言葉の気付きに触れ、自分の考えと仲間の考えを比較しながら、複数の言葉から豊かに想像する姿をねらう。

【単元構成（8時間扱い）】

0～1時間目	2～3時間目	4時間目	5時間目	6時間目（本時）	7～8時間目
○4月『なりきって書こう』 登場人物になりきって作文を書こう！ 同じお題なのに、違う作文になっておもしろいな。 ○9月『ごんぎつね』 うたれたごんの気持ちになって書くこと…。 ○日常活動『なりきり作文』 人によって、想像したことが違っておもしろいな。 なりきって書くとき、その人の気持ちをより想像できるよ。他にもなりきって書いて、読み合いたいな。	○初発の感想を書く うたは最初作文に書くことを悩んでいたけど、最後には作文に書くことを決めたようだ。 なりきり作文で他の人の想像した内容がおもしろかったよ。うたの作文の続きを、うたになりきって書いてみたいな。 ○学習計画を立て、あらすじの確認する。 中心人物はうただね。グレンとの出会い・野菜畑・湖の三つのどれかを作文の続きにしそう。 うたは、グレンとの関わりを作文に書きそうだよ。 うたは、特にどの出来事や言葉が心に残っているんだろう。	うたは、作文の続きに何を書いたのかな？ うたはどんな出来事から、どんな気持ちになったのかな？ ○3場面 グレンと初対面 「パンの焼きあがる香りがもわあっと」は、いい匂いだから、うたの楽しみな情景だと思う。 「昼すぎの雨と翌朝の快晴」が気持ちの対比になっているし、天気で気持ちを表しているね。	○4場面 野菜畑の出来事 「ぱっと、はじけるような答え」ってうたは思っているけど、どういう気持ちでそう感じたのかな。 聞いているだけのうたから、「英語では、どう言うんだろう」、「日本語では、赤ピーマン、だよ」と、自分から話しているよ。会話が楽しいという気持ちが大きくなっているね。 4場面の「二匹のりすたち」と、5場面の「白鳥が二羽」は、うたとグレンの二人と重ねているんじゃないかな。二つとも仲良くしている二人の気持ちに合っているね。 うたの気持ちがよく分かったよ。この中から作文の続きを、うたの気持ちになりきって書きたいな。	○5場面 湖での出来事 「白とピンクの花も、緑の葉っぱも、きらきら」は、うたの喜びの気持ちを表しているんじゃないかな。 「草と風がやさしく話しかける」は、うたのグレンとの時間が心地よいという気持ちを表していると思ったよ。 「白鳥が二羽、仲よくよりそって」はうたとグレンの二人が仲よくなった関係の変化につながるね。	うたになりきって作文の続きを書けたよ。みんなはどんな続きを書いたのかな。 みんなはどんな作文の続きを考えたのかな？ 友達の白鳥が二羽飛び立つシーンを中心に書いた作文が、私の作文と違って、うたのグレンに対する気持ちとつながっていて、よかったよ。 仲間の作文との違いから、言葉から想像したことが違うことが分かったよ。

【本時の目標】

うたの気持ちを叙述から考える活動を通して、情景や比喻などの今まで活用した読みの視点を基に気持ちを表す言葉に注目し、うたの気持ちや思いを具体的に想像できるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（6/8）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図とかかわり
＜前時まで＞ うたが心に残ったことはどんなことなのかを考えるために、三つの場面に分けて、それぞれの場面で情景や比喻、色の表現や繰り返しなどの表現に注目している。		
○前時の確認 うたは作文の続きに何を書いたのかな 4場面では、自分から英語で話し始めているから、グレンともしっかり話したいという前向きな気持ちが芽生えたんじゃないかな。 3、4場面と、どんどんうたの気持ちが変化していたよ。5場面では、どんな言葉からうたの気持ちがわかるかな。	情景 登場人物の行動の変化	うたの気持ちを表す言葉に注目しながら読み進められるように、前時までに行ってきた学習と読みの視点を想起する。 （視点1）
うたは、5場面でどんな出来事から、どんな気持ちになったのかな？ ○学習の見通しをもつ うたの気持ちがいろいろ想像できる言葉に注目して読みたいな。 5場面でも情景の表現から、うたの気持ちを考えようかな。		場面で区切った場面シートを活用することで、同じ言葉を様々な読みの視点で読み深めている仲間の考えにふれやすくする。さらに、全体共有の際に同じ場面で語ることで、同じ言葉でも読みの視点によって、考えが異なることに気付きやすくする。 （視点2）
○グループごとに5場面でうたの気持ちが表れている言葉を探す 草と風がやさしく話しかけてくる。 白鳥が二羽、仲よくよりそって、飛び立っていくのが見えた。 草と風は話さないから、人に例える擬人法の表現だね。 白鳥が仲よくよりそっている姿がうたとグレンの二人みたい。 私は、やさしく話しかけてくるから、居心地がいい気持ちだと思ったよ。でも、喜びの気持ちと考えている人もいて、人によって考えた気持ちが違ったよ。 白鳥は、1場面にも出てくるよ。最初に雲を白鳥として思い浮かべているから、うたにとって忘れられない気持ちを表していそう。 他の人の考えも聞いて、5場面でうたはグレンとの時間がかけがえのない思い出になったと思う。それを続きにしたのかな。 4場面と比べて、うたの気持ちが想像できる情景が増えたよ。その情景から、二人の絆を作文の続きに書くんじゃないかな。	情景 比喻（擬人法）	複数の言葉の効果に気付く機会を設けるために、全体で言葉を取り上げ、考えを共有する。そうすることで、班での学びから学級全体での学びにつながり、より複数の言葉から具体的に想像する姿をねらう。 （視点2）
5場面で、うたの気持ちを表す言葉について見付けて、うたの気持ちを考えることができたよ。うたが作文に書いた気持ちも分かってきたよ。 ○学習の振り返り 3つの場面を比べて、うたの気持ちがより分かったよ。 考えたことを基に、うたになりきって、作文の続きを早く書きたいな。		注目した言葉や読みの視点について振り返ることで、うたの気持ちを具体的に想像した内容とつなげ、考えたことを基に作文の続きをうたになりきって書きたいという意欲につなげる。 （視点1）

【本時の評価】

情景や擬人法などの今まで活用した読みの視点を基に、「『草と風がやさしく話しかけてくる。』という言葉から、グレンとの時間は居心地がよくて、うたにとってかけがえのない思い出になったと思う。」や「『白鳥が二羽、仲よくよりそって、飛び立っていくのが見えた。』という言葉から、うたにとって忘れられない思い出になっていると思う。」など、場面の言葉に着目して気持ちを想像している。

（行動観察・場面シート・ノート）